

## 佐渡金銀山と棚田の成立ち

佐渡での稲作の始まりは約2000年前とされています。佐渡中央部の湿地を中心に稲作が行われていましたが、佐渡の砂金発見から相川金山閉鉱まで長きにわたって金が採掘され、人口が増加するにつれて水田は谷間の湿地へと拡大し、土地の少ない集落では小規模な棚田を開発して必要な食料を確保していきました。

17世紀に入ると相川金山が発見され、採鉱が行われました。金山の発展によりゴールドラッシュとなったことから、全国各地から富を求めて人々が佐渡を目指し、人口は爆発的に増加しました。急増した人口の食糧需要を賅うため、新田開発が促され、山間深くまで及ぶ佐渡独特な棚田の風景を作り上げました。

水源の乏しい佐渡では1000を超えるため池により灌漑がなされました。また、特徴的な開墾のための水利技術でもある小木地区琴浦や宿根木の横井戸は現在も利用されており、これらは佐渡の農村風景を特色づけています。



山を切り開いて開発された棚田



佐渡金銀山の遺跡の横井戸

## 世界農業遺産 (GIAHS) の認定

世界農業遺産とは、「過去の遺産」ではなく、さまざまな環境の変化に適応しながら進化を続ける「知恵の遺産」と言われています。国連食糧農業機関 (FAO) が自然と共生する農林水産業が育む、豊かな生態系や美しい景観、伝統文化・芸能などが息づく世界的に重要な地域を認定し、次の世代に継承することを目指しています。

2011年に先進国として初めて世界農業遺産に認定された佐渡には伝統的な棚田や能、鬼太鼓をはじめとした多様な農文化・芸能が継承されているとともに、時代と環境変化に対応した生物多様性に配慮した農業システムが営まれ、人とトキが共生する豊かな里山環境が生まれ、維持されています。



トキ (Nipponia nippon)



伝統芸能 鬼太鼓

## 佐渡島へのアクセス方法

四季の変化に富んだ日本海最大の島「佐渡島」。実際に来てみると「予想していたより大きかった!」という感想をよくお聞きします。島内の棚田を見て回るには移動手段を事前に調べてからお越し頂くことをお勧めします。下記サイトでは、船乗場までの移動方法や島内の交通手段など、詳しくご覧いただけます。ぜひご活用ください。



さど観光ナビ <https://www.visitsado.com>

## 佐渡棚田協議会に参加・応援しよう!

かけがえのない財産である棚田を次世代へ継承するため、平成24年に佐渡棚田協議会は設立しました。島内各地に散在する棚田地域が気持ちを一つにして生産活動を行い、棚田保全に努めています。

佐渡棚田協議会では、当会の活動に主体的に参加して下さる「正会員」と当活動を応援して下さる「賛助会員」、「無料」棚田サポーターを募集しています。

お申込み・お問い合わせ

事務局 佐渡市農業政策課  
お電話 0259-63-5117



## 棚田米のご注文はこちら

お好みの棚田米のお取り寄せ、気になる地区の棚田米のお試しなどに、佐渡の棚田のそれぞれの個性をお楽しみください。



ご注文・お問合せ  
佐渡棚田協議会事務局 (佐渡市農業政策課内)  
お電話 0259-63-5117  
通販サイト <http://shop.sadotanada.com>

みんなに伝えよう  
佐渡島の棚田

## 1. 達者棚田

たっしや

達者集落は佐渡屈指の海岸美を誇る尖閣湾が始まる位置にあり、海岸段丘上の棚田からは海を一望できます。また、森鷗外著「山椒太夫」でおなじみの「安寿と厨子王」ゆかりの里であり、母親と厨子王が「達者で逢えて良かった」と喜び合ったことからこの地名がついたともいわれています。

山の清流と海からの汐風で育ったお達者米は香り豊かで冷めてもおいしく、「お互い達者でいましょう」というゲン担ぎの意味も込められています。刈り取った稲の一部は浜や川沿いのハゼに掛けて天日干しをする昔ながらの方法を採用し、手間をかけて米作りに励んでいます。



達者棚田

## 2. 北片辺棚田

きたかたべ

佐渡島の北側、金北山の麓に位置し、海岸段丘の上に広がる棚田です。

目の前の日本海からはミネラル分を豊富に含んだシベリアおろしの厳しい潮風、背後の大佐渡山脈からは、ひんやりとした雪解けの清水が流れ込みます。

北片辺で語り継がれていた民話「鶴女房」は、劇作家・木下順二氏が語り聞き「夕鶴」として発表されたことで全国に広まりました。民話の里・北片辺で作られたお米は、そこから「夕鶴の里米」と名付けられました。



北片辺棚田

## 3. 小倉千枚田

おぐらせんまいだ

小倉千枚田は小佐渡の山中に位置し、海拔 350～400m で典型的な棚田です。耕地は日照時間が長く、用水は山の湧水と「坪山堤」でまかなっています。

ここは、国の減反政策などで荒廃田となっていました。周辺整備の一環として平成 20 年度に復活し、「小倉千枚田管理組合」を中心に、オーナー制度とボランティア活動に支えられ、保全管理に努めています。オーナーの皆様からの「景観がすばらしい・お米が美味しい」などの声に励まされながら、これらを力に意欲的に取り組んでいます。



小倉千枚田(夏)

## 4. 猿八棚田

さるはち

小佐渡の山々を背に国中平野そして、金北山を望む高台に穏やかな里山の風景が広がります。猿八に来ると、人里離れた山奥にきたような感覚になりますが、市街地から以外に近い場所にあります。

経塚山(標高 636m)からの涪んだ沢水を耕地(標高 300m)に直接引き込んだ自然流水で栽培しています。周囲を大自然に囲まれた環境の中で丹精込めて育てられたお米は安心・安全、そして味わい深い逸品です。



猿八棚田

# 佐渡島 棚田マップ

佐渡には素晴らしい棚田がたくさんあります。天気の良い日に棚田散策はいかがですか。

※棚田を散策する時は、お邪魔しますの気持ちをお忘れなく。



## 8. 歌見棚田

うたみ

両津港から車で 30 分ほどの距離にある歌見集落は、古くから農業を中心に、時代の変化に合わせて製塩や漁業、廻船、製炭などで生計を立ててきました。

歌見棚田は鹿やイノシシなどの大型野生動物が生息しない、本州の山とは一風違った植生を持つ大佐渡山脈と、夏はマグロ、冬はブリと豊富な海産資源に恵まれる両津湾に挟まれた佐渡屈指の傾斜地にある棚田です。

歌見田とも呼ばれている棚田は、海と山に挟まれた海岸線上に並ぶ 3 つの集落が共同で使用しており、半農半漁を営む地元の人たちの生活を一望することができます。



歌見棚田

## 5. 片野尾棚田

かたのお

片野尾の棚田は全体で約二十町歩ほど、大小の田んぼが山の林道近くまで広がっています。標高が高いことで生まれる昼夜の寒暖差から、早朝には朝霧が稲を覆い、山の自然が育む冷たい清水は田んぼから田んぼへと行き渡ります。

平野の田より日照時間は短いですが、これらの自然環境のなか、片野尾のお米はぎゅっと味のしまった美味しいお米へと成長していきます。生活環境と自然との関わりを考えたビオトープづくり、無農薬、減農薬のお米づくりに今もお挑戦し続けています。



秋の片野尾棚田

## 6. 月布施棚田

つきふせ

月布施集落の大きな特徴は、集落の両端合わせて七本の川があり、その他にも清水が湧き出し、水利に恵まれているということです。そのため、区画整理をする必要のなかった月布施の田んぼは昔から「隠し田」と呼ばれ、集落のいたる所に小さな棚田が散在しています。急峻な土地を流れる清らかな湧き水は、その散田一つ一つを潤します。散在している分、田んぼの管理は大変ですが、集落や島外ボランティアの方に協力いただきながら、維持管理に取り組んでいます。



月布施棚田 天日干し



1970年代から続く「厄払い・神事・踊り押し」

## 7. 岩首昇竜棚田

いわくびしやうりゅう

岩首集落の棚田は、江戸時代頃から開田が進み、その形状を残しながら受け継がれた田んぼは現在約 12ha、460 枚ほど。標高 30～470メートルの山間に広がる、急峻な里山の棚田です。

落葉広葉樹の合間を左右にうねりながら上へ上へと連なる棚田の様が、まるで空に龍が昇っていくように見えることから「岩首昇竜棚田」と呼ばれています。

また、岩首の棚田は上下どちらから眺めても絶景と言われ、特に岩首棚田展望小屋(通称・空のまめらか家)からの景色は一目置かれています。晴れた日には、眼下に広がる棚田から海を望み、その向こうに本州の山々を見ることもできます。



春の水鏡に映る朝日